

The SUNTORY logo is displayed in a bold, blue, sans-serif font. The background of the slide features a light blue, abstract pattern of concentric, wavy lines that resemble topographical contours or ripples, creating a sense of depth and movement.

サントリーのGHG Scope3削減への取組み

サステナビリティ経営推進本部 西脇 義記

2025/1/30

A g e n d a

01

会社概要

02

GHG削減



01

会社概要

● サントリーホールディングス株式会社

創業

代表取締役会長

代表取締役社長

連結売上収益(酒税控除後)

連結売上収益(酒税込み)

連結営業利益

1899年

佐治 信忠

新浪 剛史

29,521億円*1

32,851億円*1

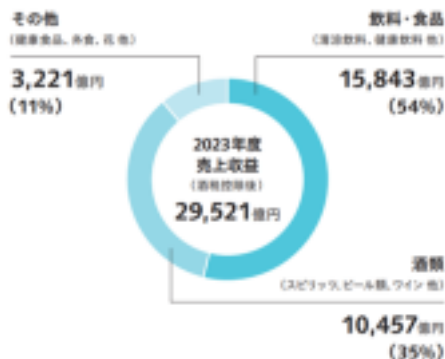
3,172億円*1

*1：2023年1月1日～2023年12月31日

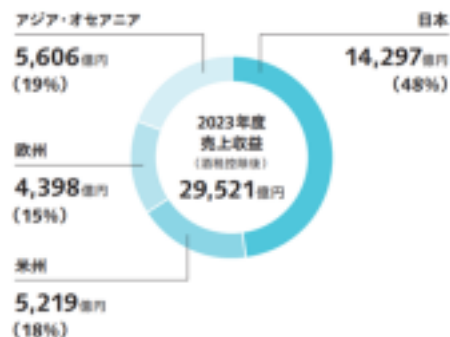
● 商品・サービス



● 事業セグメント別売上



● 地域別売上



● 地域別グループ会社数／従業員数

グループ会社数 271社 *2
従業員数 41,511人 *2

*2：2023年12月31日現在



サステナビリティに関する最重要テーマや、事業との関係の深さも踏まえて、特に①水、②容器・包装、③気候変動に注力しています。

サステナビリティに関するグローバル最重要テーマ

生物多様性

循環経済

気候変動対策

テーマ 01

テーマ 02

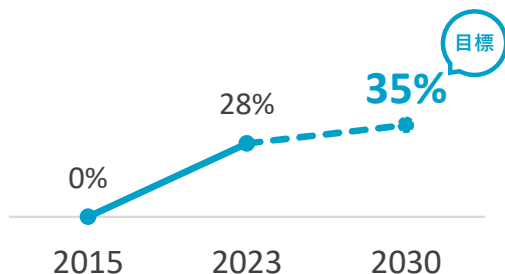
テーマ 03

水

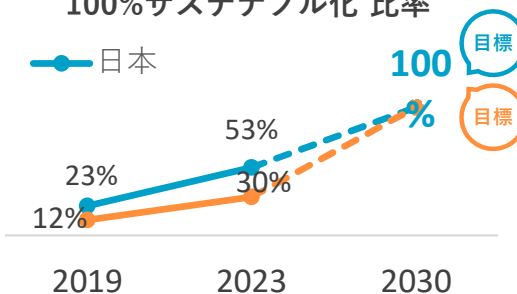
容器・包装

気候変動

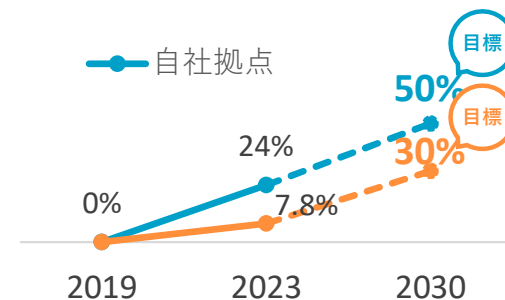
水使用量の原単位削減率



すべてのペットボトルの100%サステナブル化*比率



GHG排出量削減率



*リサイクル素材または植物由来素材等使用率を100%とする

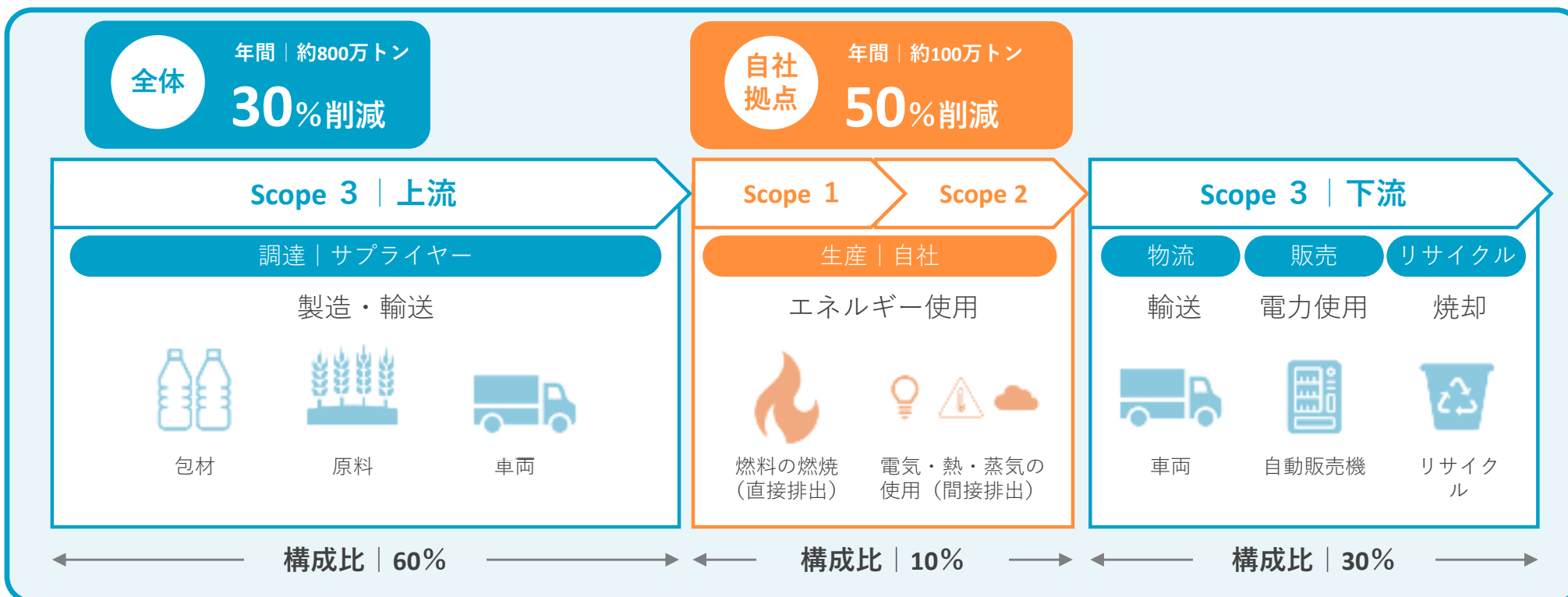


02

G H G 削減

サントリーグループは、2030年までにGHG排出量を「自社拠点で50%」「バリューチェーン全体で30%」削減することを目指します。

※2019年の排出量を基準とする



年間約100万トンのGHG排出量（2019年時点）を、2030年に50%削減することを目標とし、様々な取組を実施しています。

2023年～

再生可能エネルギー

日本・欧米の自社生産研究拠点の購入電力を100%再生可能エネルギーに切り替え



日本も合わせた66拠点で、年間約23万トンの排出量削減

2021年～

CO2排出実質ゼロ工場

国内食品工場初



カーボンニュートラル保証（PAS2060）を取得

- 天然水 北アルプス信濃の森工場



2025年～（予定）

CO2を排出しない **グリーン水素**

国内最大規模

P2G*設備導入

*Power to Gas： 再エネ電力を利用し、水を電気分解し水素を製造する技術

- 天然水 南アルプス白州工場
- サントリー白州蒸溜所



2030年に、バリューチェーン全体におけるGHG排出量を30%削減することを目標とし、さまざまな取組を実施しています。推進には、業界を超えたステークホルダーとの連携が欠かせません。

包材



業界を超えて連動し、 環境負荷の低い缶容器を企画

01

世界初^{*}

リサイクルアルミ材
100%使用

※缶材由来のリサイクルアルミのみを使用し、商用化されたSOT（ステイオンタブ）缶として（2022年7月 東洋製罐グループ、UACJ調べ）



2022/9 限定発売

02

再エネでCO2排出を抑制し
製造した「グリーンアルミ」を
一部に割り当て



2024/1 限定発売

原料



英国における再生農業による 麦芽用大麦生産

2022：開始 | 2023：初収穫

実態

世界のGHG排出量のうち、
農林業を由来とした排出量は大きい。
当グループでも、バリューチェーンにおけるGHG排出量
の中で、農業由来のものは約2割を占めると推定

再生農業により **GHG排出削減** を目指す

● 再生農業とは？

- 農地の土壌に着目し、その生態系を再生させることにより土壌の肥沃度(ひよくど)を高め、農作物の生産を持続可能にするための農法。
- GHG排出量の削減だけでなく、さまざまな環境負荷の低減や耐性の向上も期待される。

すべてのペットボトルの「100%サステナブル化^{*1}」し、GHGを削減

特にペットボトルに関しては、GHG削減と、循環社会を両立させる

「すべてのペットボトルの100%サステナブル化」を2030年に目標達成すべく、さまざまな活動を推進しています。

^{*1}リサイクル素材または植物由来素材等使用率を100%とする

STEP 01

国内初

「ボトルtoボトル」水平リサイクルの仕組み構築



2011

2012



国内初

100%リサイクル ペットボトル使用

メカニカルリサイクルによる

2016

2018



世界初

F to Pダイレクト リサイクル技術 の開発^{*2}

STEP 02

R PLUS JAPAN

使用済プラスチックの
再資源化を目指し設立



植物由来素材100%使用
ペットボトルの開発に成功

2020

2021

2023

2本に1本以上が
100%リサイクル
ペットボトル



出荷数の全数

100%

2023年実績



出荷数の7割以上

70%

2030

リサイクル素材
または
植物性由来素材等の
使用率を100%にして
GHG排出を削減

^{*2}「ボトルtoボトル」水平リサイクルをさらに発展・効率化させ、新たに化石由来原料を使用する場合と比較し、約70%のCO2排出量を削減する技術

使用済みプラスチック（ペットボトル含む）の再資源化を目指す、共同出資会社R PLUS JAPANは、当初は12社からスタートしましたが、2024年12月現在参画企業は46社となっております、技術の商用化を目指しています。

R PLUS JAPAN
 使用済み「その他プラ」
 （レジ袋や弁当容器など）の
 再資源化に取り組む共同出資会社



2024年11月
 46社が参画



Point

工程を省略できる ▶ CO2排出量やエネルギー必要量の抑制

G H G排出量が多い品目カテゴリにおける現時点で排出量への寄与※が大きい国内取引先様向けに2020年以降、年1~2回の頻度で、G H G削減方針説明会を開催しています。

※国内事業のみではなく、海外事業含めたグループ計の寄与

G H G削減方針説明会

 <p>GHG削減 方針説明会</p> <p>2023.11.27 サントリーホールディングス株式会社 サプライチェーン本部 包材部・原料部 共催</p>		 <p>原料</p>	<p>砂糖、異性化糖、香料添加物、緑茶、乳、コーヒー、穀物、アルコール</p>
		 <p>包材</p>	<p>rPET樹脂、PETボトル、缶、キャップ、ラベル、段ボール、ガラス瓶</p>

50社以上の国内取引先様に方針と以下の依頼事項を説明

- | | | |
|---|-----------------|-----------------------|
| ① | G H G削減計画提出 | 活動進捗・実績と計画の更新 |
| ② | S B T i 認定・社外公表 | 公表・認定状況と計画の確認 |
| ③ | 電力再エネ化/徹底した省エネ化 | 省エネ（補助金利用）+再エネ電力100%化 |
| ④ | 原単位実績提出 | 当社向け生産量+エネルギー使用実績 |

「電力再エネ化」と「徹底した省エネ」は、G H G削減効率が良い施策であると認識し、着実な実行を目指しています。

再エネ

R e p l a c e

目標：再エネ電力100%

各社と再エネ電力導入目標・進捗を議論

省エネ

R e d u c e

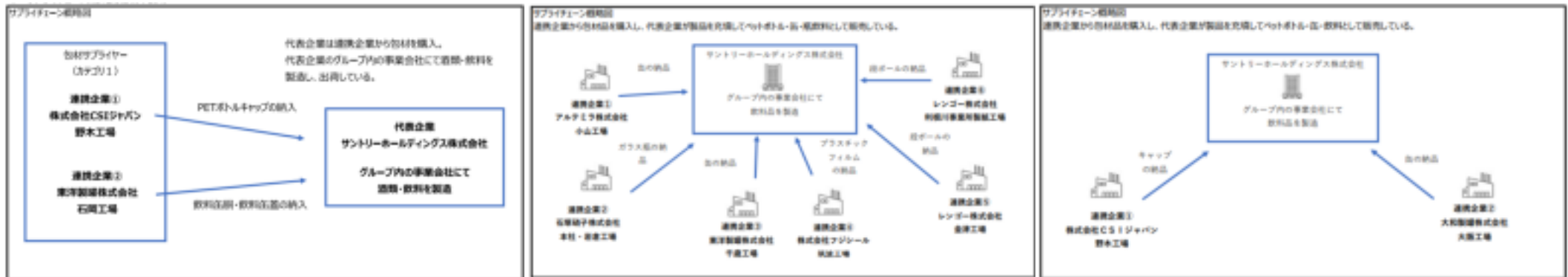
補助金を活用

環境省補助金 企業間連携先進支援を紹介

関西電力（株）のサポートのもと、1次サプライヤーにおけるGHG排出量の少ない設備への更新について、補助事業への申請を積極的に進め、2年度連続で採択されました。

2023年

2024年



サントリー：SC全体でGHG排出量の削減をしていく方針に賛同していただき、協力して頂いた

連携企業：代表企業の scope3と当社のscope2の両方のGHG削減になり、目標達成を後押ししてもらえる有効な補助金

連携企業：申請書類の準備に大きな負担も無く納期内に完了することができました

関西電力様：複数社の申請書類をまとめるのに想定していたほどの作業量は無く申請することができました

引き続き、
サプライチェーンの皆さんと一緒に
脱炭素社会の実現に向け
取り組んでいきます